

< 祈禱会の聖書から >

【生命は生命から生まれる】これはパスツール(1822-1896)の科学精神を示している言葉です。微生物ということについて、誰も今や疑わないのですが、現代にまで続く、今も発展している医学の基になりました。回覧板で告知されていることですが、肺炎球菌や細菌性髄膜炎の予防接種も、公費で行われる時代を迎えています。つい最近まではなかったことです。“新しいことです”。パスツールは、狂犬病の予防接種などでも有名ですが、時代は、200年もたっていないつい最近のことです。教会(あるいは信仰者の生き方)のことをみてみますと、近代的医学を拒否することを、“非科学的”だと殆どどの教会は教えるでしょう。そして、条件の許す限り十分な医療を求めてほしいとも、教会は教えるのです。そこに抗生物質があるのに、重大な病気を我慢することは誰もしないでしょう。おそらくこれからの新しい時代は、ウイルスや遺伝子に働きかけることを問題にする時代に踏み込んで行くことでしょう。

【保守的ということ】キリスト教会は、良いこととして“伝統を大切にする”ということを重視します。“聖書は何と教えるか”、“伝統はどうか”という具合にです。しかし教会は、同じくあらゆる分野において“理性的であること”も教えてきました。あらゆる分野においてですから“主の救いについて”も“罪の悔い改めにおいて”もそうなのです。功罪を連ねれば限りのないことですが、また主イエスの福音を“ただ新しい”ということと記してしまうのはどうかについては、今は触れませんが、近代を迎えるに至るまで、修道院があらゆる分野で最先端を進んで来ました。それは、聖書の今朝の箇所を大切にきて来たからといって間違いないと思います。

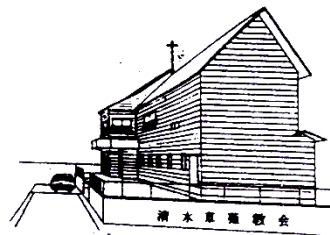
【全く新しいものだ!】“あなたたちが、幻のように信じていたかもしれないが、新しいことが今展開されているのだ”、と聖書は教えています。“今までどおり”ということは、ある時には安心できることであったり、あり様を確認するという意味で離れがたい時があります。ここに描かれている“ヨハネの弟子たちは度々断食し、祈りをし、ファリサイ派の弟子たちも同じようにしています。しかし、あなたの弟子たちは飲んだり食べたりしています(5:33)”という指摘がこのことを示しています。ところが御父を、その御父のそばにおられた方が、私たちに伝えてくれたのです。“神を見たものは一人もない(ヨハネ福音書1:18)”と福音書は伝えます。父を知らせて下さる方が、ここにおられるのです。

【新しい契約】新しい契約による救いはこのようにして人々の間にやって来ました。ファリサイ人やヨハネの弟子とされている人達は、新しいことに不安を覚えました、存在根拠を奪われるように思えました。神の救いという、力説していたことが、実は“神が独り語をお与えになるいほどに”という事実において、そして“悔改めて福音を信ぜよ”という、十字架への道において実現しました。

【救いには新しい魂】“このような者でないことを感謝します”という魂にはふさわしくなく、“お許してください”という悔改めこそ、御心に相応しかったのです(ルカ18:13他)。今も変わりません。教会は常に悔い改めの祈りを忘れない群れです。

週報

2011年 2月 6日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリースタジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042